

## お堀の花

県庁のお堀では、ひとときわ咲き誇ったソメイヨシノ桜が葉桜となるころから晩秋にかけて、雑草の花が次々と咲き競うようになる。それぞれの花が美しくなるころにはいつも刈り取られてしまうが、数日たつと雑草は再び伸びて花を咲かせている。「誰れも見なくてもよい、我れは咲くなり」という武者小路實篤氏の言葉が思いあたるようである。

このお堀で春を告げる野の花といえは、オオイヌノフグリやタンポポ、スマレ、ナズナ、ハハゴグサの花であるが、なかでもオオイヌノフグリは花が美しく、コバルト色の花はまさに生きた宝石といたいような美しい花である。この花は明治20年(1887)の春、植物学者牧野富太郎氏の発見した帰化植物で、いまでは日本の花として親しまれている。これに続いてフキノトウがお堀ばたの土を持ち上げる頃になると、雑草も次第に伸びて、草むらに緋色の花をちらほらのぞかせる草ボケの姿もみられ、日当りのよい斜面にはタンポポの花がじゅうたんをしきつめたように咲き出して、こんなところにタンポポがあったのかと驚かされる。タンポポは年に数回葉の形が変化する植物で、冬期はあまり目立ちにくい形となっている。このお堀のタンポポも他の場所と同様に西洋タンポポが大部分の領域をしめている。日本タンポポ(日本タンポポ属は20種程ある)の姿はまれにしか見られない。タンポポと同時に咲く花が誰れも好むスマレの花である。お堀に咲くスマレ

の種類は少ないが、大部分はタチツボスマレやツボスマレであり、ノジスマレ、コスミレ、スマレ、ヒメスマレは少なく、本来のスマレはあまり見あたらない。日本はスマレ王国といわれているくらいで、200種とも85種ともいわれているが、世界では450種ある。最近では紫色の濃いスマレを路傍で見ることが出来なくなった。道路がコンクリートやアスファルトになると、路傍の土壌は自然に酸性からアルカリ性に変化して日本古来の植物が住みにくくなって、逆にアルカリ性を好む洋種の植物が繁殖するようになる。したがって路傍の植物の大部分は帰化植物なのである。春の七草でさえも日本古来の植物はセリのみで驚かされる。

タンポポ属やスマレ属の花の盛りがすぎる頃となると、お堀の斜面にヒメジョオンやハルジオンの草も伸びて白花や、ピンク色の可愛い菊の花が見られる。この草は繁殖力が旺盛で、いたるところで群落が見られる。この花はもとは観賞用に外国人の手によって作られていたものが、人類の移動・交流につれて外国から侵入し、日本全土に野生

化した帰化植物である。ハルジオンとヒメジョオンはみわけがつかないほどよく似ているが、ハルジオンは茎を切ってみると中空になっていて、一方ヒメジョオンの茎はその中心部まで白く詰まっているなどわかるが、ハルジオンの方が早く咲いて花もピンク色をしている。しかし、最近では交雑種が多くなって渡来当時の姿は見られなくなっているともいわれている。

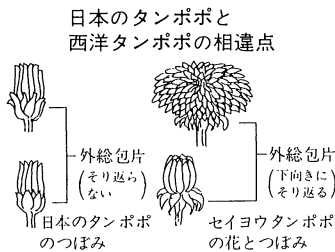
また、お堀のあちこちにカキドウシ、ホタルブクロ、ツユクサ、イヌタデ、オニアザミ、ゲンノショウコ、キランソウ、オドリコソウなども次々咲いているが、マメ科のクラスノエンドウ、スズメノエンドウ、ムラサキツメクサ、シロツメクサも一勢に咲き出して、とくにムラサキツメクサやシロツメクサは花期が長く秋まで続く。やがて桃色のツルボの花や、大型の花でヤブカンゾウやノカンゾウが咲く。この花は田のあぜ、土手、道ばたなど普通にみられるもので、お堀の斜面にも多くみられるが、刈り取られるために花は多くみられない。カンゾウやキスゲの新芽は高級

山菜料理として珍重されている。この花が終るころになると、けたたましく百舌が鳴く季節に入り、ヒガンバナ(曼珠沙華)の赤い花がお堀のところどころにかたまって燃えるように咲く。この花はよく人に知られた草で、中国原産の帰化植物で、墓地や人家に近いところに生えている。遠い昔は食用植物だったらしいのですが

毒草の一つである。同じ頃キク科のヨメナ、ユウガギクの白い花が咲くとお堀もにぎやかになる。白と赤とのコントラストもよく、秋のよそおいが深くなっていく。わずかではあるがワレモコウやツリガネニンジンもお堀の片すみに咲き出して秋の色どりを添えるが、何度も刈り取られているのでよほど注意深く観察していないとこれらの植物を見おとすことになる。

お堀の植物も他の場所と同じように大部分が帰化植物であり、これは明治以降の日本の近代化にともなって植物の世界にも大きな影響を及ぼしたことは事実で、多くの帰化植物の侵入はそのひとつの現れであり、帰化植物には人間の歴史というものがある。ちなみに日本の植物の種類は約5,000種で、本県には2,103種、最も植物の多い筑波山には884種である。また日本に帰化した植物は正確にはむづかしいが1,188種といわれている。

(県統計課・打越幸道)



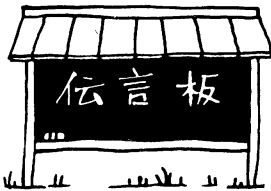
# 【新着資料案内】

この資料は、昭和57年2、3月中に行政資料室に到着した主なものです。ご利用下さい。  
行政資料室 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2668)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
<b>中央官公庁関係</b>		茨城県卸売市場整備計画 昭和55年度 茨城県農業試験場年報 畜産の動向 昭和55年 茨城県蚕業試験年報 茨城県内でのスギ樹勢衰退とその要因に関する研究	流通園芸課 農業試験場 畜産課 蚕業試験場 林業試験場
昭和55年 国勢調査報告 第2巻 (岩手県 群馬県、京都府、 奈良県、和歌山県、鳥取県、 広島県、佐賀県、鹿児島県、 沖縄県)	総 理 府	昭和56年 間伐総合方針書 昭和55年4月 道路現況調書 昭和55年度 公共用水域の水質測定結果 昭和55年度 地方教育費調査報告書 昭和57年度 市町村教育関係予算編成指針	林業課 道路維持課 企業局 教育庁企画課 "
昭和55年 家計調査年報 昭和54年 全国消費実態調査報告 昭和55年基準 消費者物価指数の解説 諸外国における統計の制度と運営(その8) くらしの統計'82 国民生活統計年報 不変価格表示の国民経済計算に関する マニュアル	" " " 行政管理庁 経済企画庁 "	<b>県内市町村関係</b>	
昭和56年版 消費動向調査年報 昭和55年 国民健康調査 昭和55年 水産物流通統計年報 昭和54年 林業生産統計年報 昭和55年版 食糧管理統計年報	" 厚生省 農林水産省 " 食糧庁 "	土浦地方モデル定住圏計画 常陸太田市 第2次総合計画後期基本計画 (昭和56年度~60年度) 勝田市史料 一水戸射撃場の歴史一 第二次岩井市総合振興計画 一人間性豊かな田園都市をめざして一 広報東海縮刷版 創刊300号記念 昭和56年度 波崎町町勢要覧 東村総合計画 一水と緑に囲まれた活力ある村一 明野町総合振興計画 一「ゆとりと活力 に満ちた、つねに前進する町」づくり一 真壁町総合計画 一健康で豊かな美しいまちづくりをめざして一 藤代町総合計画 一緑豊かな真に住みよい町づくりのために一	土浦市 常陸太田市 勝田市 岩井市 東海村 波崎町 東村 明野町 真壁町 藤代町
<b>茨城県関係</b>		<b>都道府県関係</b>	
水戸対地射撃場跡地利用事業に係る 環境影響調査指針 昭和55年度 茨城県公害技術センター年報 霞ヶ浦用水事業概要図 昭和56年度版 茨城県市町村概況 昭和56年 消防防災年報 鹿島地区特別防災区域防災診断調査結果 (耐震関係) 昭和57年度 国の予算編成に対する要望事項 茨城県北地域交通体系調査 一地域の足の確保を考える一 昭和56年度 茨城の学校統計 一学校基本調査報告書一 茨城の工業 (昭和55年工業統計調査結果報告書) 昭和56年 茨城の農業 (茨城県農業基本調査結果報告書) 国際障害年 茨城県行動計画 地域における脳卒中・心臓病の予防と治療 一水戸カンファレンス一 昭和56年版 茨城の労働経済	環境管理課 県公害技術センター 霞ヶ浦用水建設推進協議会 地方課 消防防災課 " 企画調整課 地域整備第一課 統計課 " " 障害福祉課 保健予防課 労政課	北海道統計課 " 栃木県統計課 " 群馬県統計課 埼玉県統計課 東京都統計部 新潟県統計課 岐阜県統計課	
		1981 県勢要覧	

## 【新着資料案内】

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
昭和55年 京都府の工業 大阪府 勢要覧 '81	京都府統計課 大阪府統計課	<b>公社・会社・団体等関係</b>	
昭和55年 工業統計調査結果報告書	奈良県調査課		
昭和55年 工業統計調査結果報告書	鳥根県統計課		
昭和54年 県民所得推計報告書	"		
昭和55年 徳島県の工業	徳島県統計課		
昭和54年度 県民所得推計結果報告書	佐賀県統計電算課		
昭和54年度 熊本県の経済 — 県民所得推計報告書 —	熊本県統計調査課		
昭和54年度 大分県の県民所得	大分県統計課		
昭和54年度 市町村民所得	宮崎県統計課		
		昭和56年版 第30回 銀行局金融年報	"
		昭和56年度 にっぽんの予算	自由民主党
		小売戦略とニュービジネス —水戸市, 取手市, 高萩市にみる消費生活意識—	(財)常陽産業開発センター
		高齢者を生きる働らく力 —高齢者—	(財)地域社会研究会
		理論家と実務家による 第2回官庁統計 シンポジウム報告書	(財)全国統計協会連合会
		行 財 政 レ ポ ー ト 都 道 府 県 版	(社)地方行政調査会



通商産業省では

### 昭和57年工業統計調査の ポスターを公募しています。

#### 作品の内容・規格

- (1) 応募作品は、製造事業所が工業統計調査に対する理解を深め、その協力が得られる内容のもので、未発表のもの。
- (2) ポスターの規格
  - (ア) 用紙の大きさ縦59cm, 横42cm(日本標準規格A2版)で縦長に使用する。
  - (イ) 使用する色4色以内(白色は1色と数えない)
  - (ウ) 図案に入れる文字  
「通商産業省」「工業統計調査」「昭和57年12月31日」
  - (エ) 写真は使用しない。
  - (オ) 応募するポスターの裏面には、「住所、氏名、職業(学生の場合は学校名)」を必ず明記する。

#### 応募期日

昭和57年6月1日から6月30日(当日消印有効)まで。

#### 応募先

- 通商産業大臣官房調査統計部工業統計課  
〒100 東京都千代田区霞ヶ関1-3-1  
TEL 03-501-1511 (内線 2392)
- 茨城県企画部統計課商工統計グループ  
TEL 0292-21-8111 (内線 2661)

#### 入選者の発表

入選者は、「統計だより」(10月1日付)で公表する。

(本人には、直接通知する。)

- |      |    |        |      |
|------|----|--------|------|
| 最優秀賞 | 1名 | 賞状及び副賞 | 10万円 |
| 優秀賞  | 2名 | 賞状及び副賞 | 3万円  |
| 佳作   | 5名 | 記念品    |      |

#### その他

- (1) 入選作品の著作権は、通商産業省に帰属する。
- (2) 応募作品は返還しない。
- (3) 入選したポスターについては、印刷等の都合で一部修正することがある。